



順
算
紙

壹

遠
444
1



明遠
編 1.454
卷 1

怪談曠草紙序

夫怪者嘗無聖賢之論意者怪
之長也者人笑夫高掌萬仞暢
樹千丈睨之人將目眩有樵者
焉升而伐其杪夫魚蟲百游滄
海數尋臨之人自震慄有漁者
焉涉而獲其鱗樵者漁者咸致
不及豈不怪哉怪亦致不及而



使人戰栗驚駭。彼古殿所謂老
嫗長舌之妖，舊寺所謂美婦亂
髮之鬼，非人而曰名，何乎人之
怪者，遮於己之眼，己之怪者，遮
於人之眼，是則在常因兩逐貌，
見而可知也。若夫一天地有一
外物，則天地必不使人而立矣。
雖然，古人曰：乎草木蟲蛇禽

獸魚鱉，各化而有名矣。草木之
怪者，范々然突泣水音，漂飛風
聲若者，若無渾，所在原野叢衍
也。禽之怪者，搏々然鼓怒翅翼，
奮動羽毛，騫翥翔渾，所在山
林幽谷也。獸之怪者，寂々然突
衝金毛磨研四爪，劍牙紅舌，渾
所在深山谿壑也。魚蟲之怪者，

冥々然騰躍逆波跋涉風水震
 鱗閃尾渾所在滄溟大澤也
 然而人為之靈則怪人心矣豈
 有恐怖乎然不嫌于心厥不嫌
 之謂若則摸寫之書云

源溫故選



怪談頭草紙目錄

初卷

川市の身の較このころまらこれひりどもぬ
 らもさひさう一ふの女とやいふたさ流
 一樹の蔭一粒めぐるも念生あぬあ縁とたさか
 一いふるころのころ

二巻

夜半にうきしうらぬに田舎人の老えらういふ
 女のめやまひほいふ一と一とさうもさうも
 なういふころ

三ノ巻

幼春の梅のうらりのよ一それおもてあつてしとあれは法
こころしはまよふことなれは頼もことなればよの文字の成り程

四ノ巻

探ありりる粧ひもらん其愛はよとせられくまらまら
鬼女しやうきや
うしこの種たも龜總とともは天よりまののこん

五ノ巻

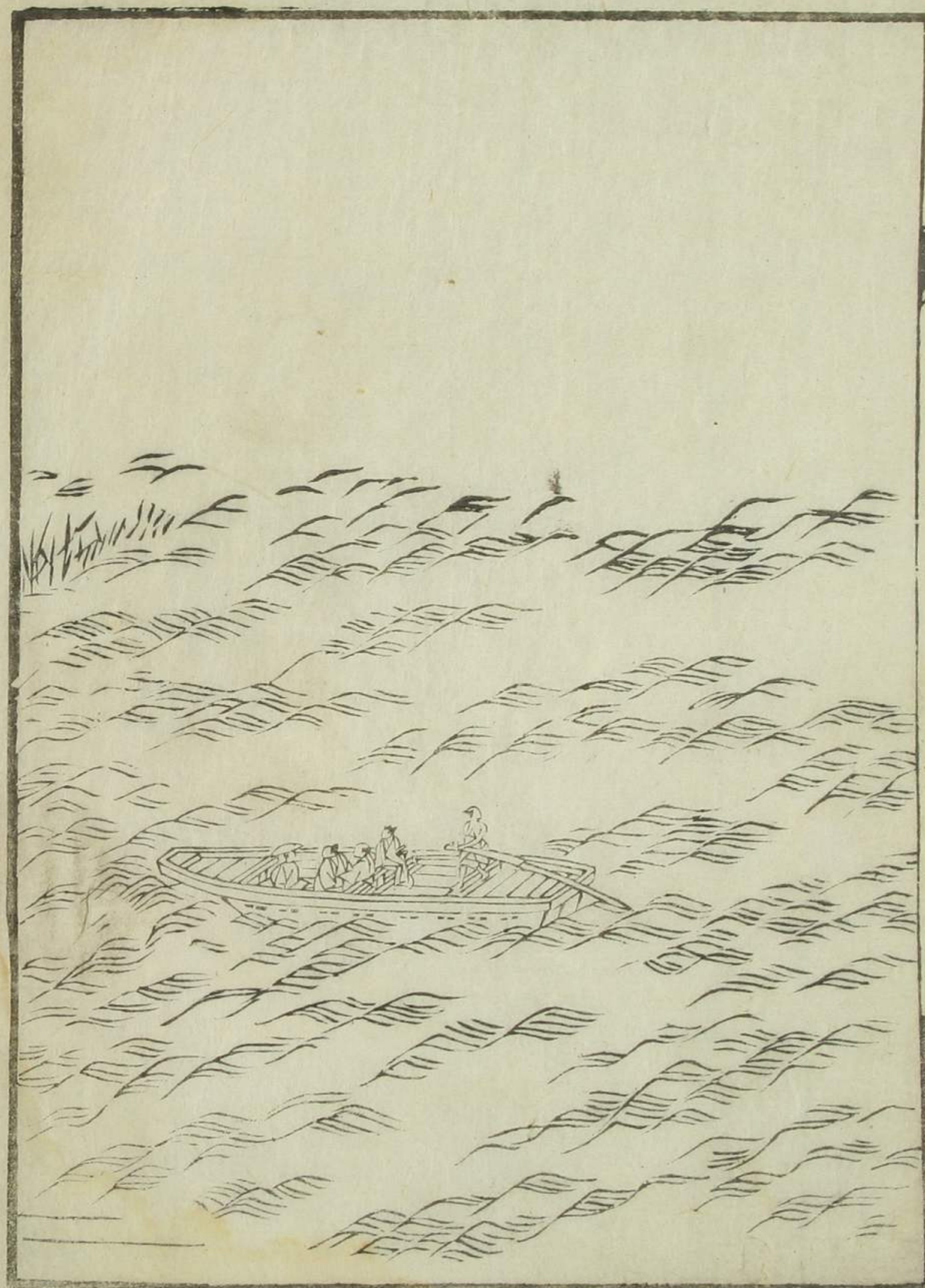
思りしと冊の枕あつてうらぬとまきまらりたふふの
のあつて
男二人の二人の舞のさし一がごとく舞まらりて
さつりゆきあし一法のと一

目録

怪談順草紙巻之一

かやいやどわ

武蔵のほと一たひおさあつてよりあつてらん口の
まほい感よひよまらざひ月よはあつて舞まらりて
いづれもあらんいづれの法代うらまきん江府の下谷と
びあよ下さぬのこはをやりて下村平治言らりしものあり
三十まはやつてあつれど父母よをうれいま書なる
いづれもあつてあれが父を母のつぎよかこつてたつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
男あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて





むすむいゝあぢもあけふのねやまやんとくさくしゆせを
 らんといひよふらにさしきくつらうらぬるとぢ
 かわいぬがらふに家ののくさふあへいゝらるるをやむ
 まづらんかゝてむかにさしきめ酒をまづぐにむすまづ
 が政とつげしむらうらるるむすまづむすむすはしてた
 むんのあゝるむすむすは後をむすむす



